

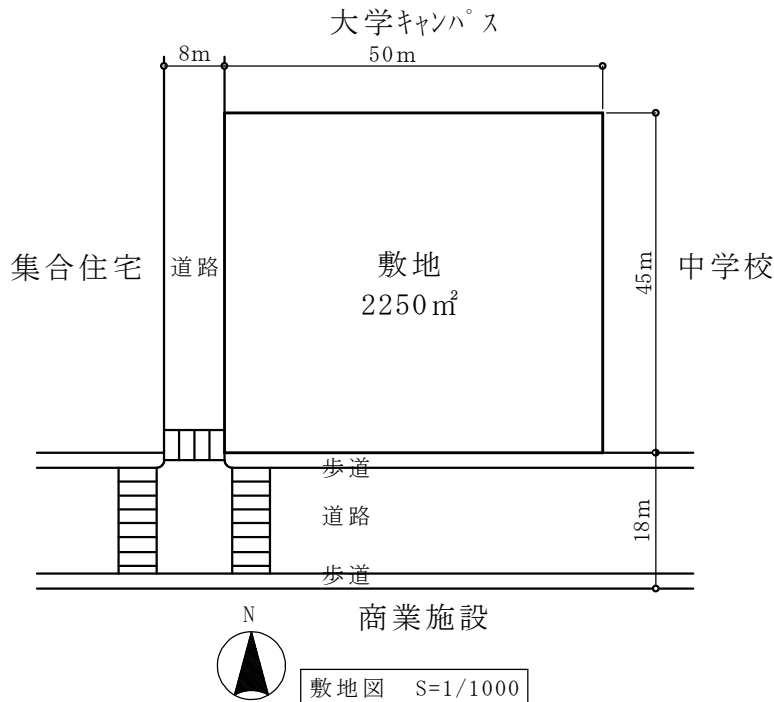
設計課題 大学のセミナーハウス

I 設計条件

この課題は、ある地方都市において、大学キャンパス内にセミナーハウスを計画するものである。なお、この施設は、北側の大学キャンパス内からも自由にアプローチできるものとする。

1 敷地及び周辺条件

- 敷地の形状、接道条件、周辺状況等は、下図の通りである。
- 敷地は、平坦で、道路及び隣地との高低差はないものとする。また、歩道の切り開きは、1箇所当たり6mまでできるものとする。
- 敷地は、近隣商業地域及び準防火地域に指定されている。また、建ぺい率の限度は80%（特定行政庁が指定した角地における加算を含む。）、容積率の限度は400%である。なお、日影についての特別な配慮はしなくてよい。
- 電気、ガス及び上下水道は、完備している。
- 地盤は良好である。
- 気候は温暖で、積雪についての特別な配慮はしなくてよい。



2 建築物

- 構造、階数等
構造種別は自由とし、地下1階、地上2階建ての1棟の建築物とする。
- 床面積の合計
地階を除く床面積の合計は、2,000㎡以上、2,400㎡以下とする。
この課題の床面積の算定においては、ピロティ、塔屋、バルコニー、屋外階段等は、床面積に算入しないものとする。
- 要求室
下表の室は、すべて計画する。

部門	室名	特記事項	床面積
セミナー部門	多目的ホール	・天井高は6m以上とする。 ・無柱空間とする。	約220㎡
	研修室		約110㎡
	視聴覚室		約110㎡
	セミナー室(3室)	・約35㎡/1室とする。	計約105㎡
	講師控室		適宜
	ラウンジ	・図書コーナー、自販機コーナーを設ける。	
宿泊部門	宿泊室(1)(5室)	・洋室8人部屋とする。 ・約30㎡/1室とする。	計約150㎡
	宿泊室(2)	・和室10人部屋とし、押入れを設ける。	約40㎡
	講師宿泊室	・洋室2人部屋とし、バス・トイレ付きとする。	約30㎡
	浴室	・男女別に設ける。	計約110㎡
	洗濯コーナー	・宿泊者が利用する。	適宜
	洗面コーナー	・宿泊者が利用する。	
リネン室			
共用・管理部門	エントランスホール	・風除室を設ける。 ・約55㎡の吹抜を設ける。 ・学生の作品の展示ギャラリーを設ける。	適宜
	食堂	・セミナーハウス利用者以外の学生も利用する。 ・70席程度のテーブル・イスを設ける。	
	厨房	・レストランに隣接する。	
	事務室	・受付カウンターを設ける。 ・施設の管理・運営を行う。 ・職員5名が常駐する。	
	応接室	・事務室に隣接する。	
	スタッフ室	・休憩等に利用する。 ・湯沸しを設ける。	
	更衣室	・男女別に設ける。	
設備スペース	・採用した設備計画に応じて、設備機械室(空調、給排水、電気等)、屋外機置場等を計画する。 ・設置階は、自由とする。		
・上記の室に関連して必要と思われる室等は、適宜計画するものとする。 ・その他必要と思われる室等は、適宜計画するものとする。			

3 その他の施設等

- 多目的広場は、次のとおり計画する。
 - 地上に設けるものとし、まとまったスペース(直径5m以上の円が1つ入るスペースとする)で150㎡以上(上部に屋根、ひさし等がある部分は算入しない。)とする。
 - 植栽を計画し、ベンチ等を設置する。
 - 屋外カフェテラスは、レストランから出入りできるものとし、10席以上のイス・テーブルを配置する。
 - 駐車場は、地上に平面駐車とし、車いす利用者用として2台分、サービス用として2台分を設ける。また、他の利用者・職員の駐車場については、この大学の駐車場を利用するものとする。
 - 駐輪場は、利用者用として20台分(1台当たり0.5m×2m程度)を設ける。
 - 敷地内の主要な通路に設けるスロープは、幅を1.5m以上、勾配を1/15以下とする。
 - ごみ置場を設ける。
- (1)~(6)の「その他の施設等」は、床面積に算入しないものとする。

4 計画に当たっての留意事項

- 計画に当たっては、特に次のことが求められている。
- 建築計画については、次の点に留意する。
 - セミナー部門、宿泊部門、共用・管理部門の異なる機能を適切にゾーニングした計画とともに、動線に配慮した計画とする。
 - バリアフリーに配慮する。
 - 敷地の周辺環境に配慮する。
 - 構造計画については、次の点に留意して計画する。
 - 建築物全体が、構造耐力上、安全であるように計画する。
 - 構造種別、架構形式、スパン割を適切に計画する。
 - 必要に応じて、耐力壁等を設け、耐震性に配慮する。
 - 部材の断面寸法を適切に計画する。
 - 設備計画については、次の点に留意して計画する。
 - 空調設備、給排水衛生設備、電気設備、消火設備を適切に設け、環境負荷低減に配慮する。
 - エレベーター(利用者用)を適切に設ける。

II 要求図面等

答案用紙I及び答案用紙IIの定められた枠内(寸法線については枠外でもよい。)に、黒鉛筆を用いて記入する。

1 要求図面(答案用紙Iに記入)

下表により、所定の図面を作成し(フリーハンドでもよい。)、必要な事項を記入する。

図面及び縮尺	特記事項
(1) 1階平面図兼配置図 1/200	①1階平面図兼配置図及び2階平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ.建築物の主要寸法(柱割り)及び床面積の計算に必要な程度 ロ.室名等 ハ.要求室の床面積 ニ.採用した構造種別、架構形式及びスパン割に応じて必要となる構造要素 ホ.設備シャフト(パイプシャフト(PS)、ダクトスペース(DS)、電気シャフト(EPS))の位置 ヘ.設備計画に応じた設備スペース(ただし、屋上に設けた場合は断面図に図示する) ト.断面図の切断位置 チ.代表的な宿泊室の室内プラン
(2) 2階平面図 1/200	②1階平面図兼配置図には、次のものを図示又は記入する。 イ.建築物の出入口 ロ.多目的広場(植栽、ベンチ等を図示し、床面積を記入する。) ハ.屋外カフェテラス(イス、テーブル等を図示する。) ニ.駐車場(台数及び出入口を明示する) ホ.駐輪場(台数を明示する) ヘ.ごみ置場 ト.通路・植栽等 チ.地下1階部分(位置を図示し、床面積を記入する。) ③2階平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ.1階の屋根、ひさし等となる部分 ロ.居室の最も遠い位置から避難階段の一に至る歩行距離・歩行経路
(3) 断面図 1/200	①切断位置は、多目的ホールを含み、建築物の全体の立体構成及び屋根形状がわかる断面とする。なお、水平方向、鉛直方向の省略は行わないものとする。 ②屋上に設備スペースを設けた場合は図示する。 ③塔屋を除く建築物の高さ、階高、天井高、1階床高及び主要な室名を記入する。 ④基礎、梁及びスラブの断面を図示する。
(4) 2階梁伏図 1/200	①2階からの見下げ図とし、主要な柱、大梁、小梁及びスラブは構造部材表の符号を明示する。 ②構造部材表に主要な柱、大梁、小梁及びスラブの断面寸法を記入し、主要な部材が複数となる場合は空欄に符号・断面寸法を追加する。なお、梁に鉄骨を使用した場合の断面寸法は、H-○×○のように記入する。

2 面積表(答案用紙Iに記入)

各階の床面積、その合計を記入する。なお、各階の床面積については、その算定式も記入する。

3 計画の要点等(答案用紙IIに記入)

- 建築計画について、次の①~④の要点等を具体的に記述する。なお、要求図書では表せない部分についても記述する。
 - 建築物の外部動線について、配慮したこと
 - 建築物の内部動線について、配慮したこと
 - 避難計画について、配慮したこと
 - セミナー部門のセミナー室等の配置及び動線計画について、配慮したこと
- 構造計画について、次の①~②の要点等を具体的に記述する。なお、要求図書では表せない部分についても記述する。
 - 建築物の構造種別、架構形式及びスパン割とこれらを採用した理由
 - 耐震計画について、配慮したこと
- 設備計画について、次の①~③の要点等を具体的に記述する。なお、要求図書では表せない部分についても記述する。
 - 建築物に採用した空調方式と採用した理由
 - 建築物の防災設備について、配慮したこと
 - 設備スペース及び設備シャフトの配置計画について、配慮したこと
- 建築物の環境負荷低減(熱負荷の抑制、省エネルギー等)について、配慮したことを具体的に記述する。